



経済産業省公認

全石協 news

◎ 新年のご挨拶

全国石製品協同組合 代表理事 加登隆三

この度の令和 6 年能登半島地震により犠牲になられた方々に、謹んでお悔みを申し上げるとともに被災されました皆様に心よりお見舞い申し上げます。皆様の安全と被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

昨年は 5 月に新型コロナウイルス感染症が 5 類に引き下げられ、新年のご挨拶の度にコロナ禍について言及せざるを得ないのも、ようやく今回で最後となりそうです。弊組合におきましても、令和 5 年度通常総会は実に 3 年ぶりとなる会場での開催となりました（2020 年から 2022 年まではオンラインにて開催）。常々オンラインで顔を合わせていた方ももちろんいらっしゃいましたが、それでもやはり、実際にお顔を拝見するとどこか懐かしいようなほっとしたような心持ちでした。

パンデミックという思いもかけぬ未曾有の外圧が社会のオンライン化、効率化を推し進めた側面もあり、気がつけば AI が人間の仕事の大半を奪いかねないというところまで来ています。本当に必要なものとそうでないものとが残酷なまでに選別され、消費者の目もそれにつれてますますシビアになっているようです。当然必要だと思っていたもの（こと）が、実は必要ではなかったという気づきを経験し過ぎたからこそ余計に、人と人との繋がりや有難さ、温もりがよりいっそう際立って感じられたのかも知れません。

幸いなことに「葬送」「供養」に関しては、AI をはじめとするテクノロジーによって代替されがたい領域であると考えられてはいますが、それはあくまでも人々が「葬送」「供養」を必要とする限りにおいて成り立つ議論であり、消費者の心がこれらを切り捨ててしまえばそれまでです。社会がポスト・コロナ、ウィズ・コロナに向けて着実に移行を遂げつつある中、私たちはいっそう強い決意と信念をもって先祖供養の大切さを訴えていかねばならないことをひしひしと感じています。

奇しくも昨年、弊組合は設立 10 周年の節目を迎え、それまでの 10 年を振り返るとともに今後の 10 年をいかに過ごしていくべきかを考えるための機会を得ることができました。樹木葬、

納骨堂、散骨といった埋葬方法の多様化と墓じまいの加速というのが現在の主たるトレンドとなっており、新型コロナウイルスではありませんが、もはや抗うよりも共存していくほかないという状況です。これまでも述べてきましたが、弊組合はこれらの動きを否定するのではなく、供養という大きな枠組みの中でとらえ、消費者の皆さまにとっての最適な供養を提案するためのツールとして活用していくべきだと考えています。

そのためには何より消費者にとって「樹木葬」「納骨堂」「散骨」「墓じまい」などがどのような意味や価値を持って存在しているのかを知ることが肝要です。弊組合の重要な事業のひとつである「消費者アンケート」や各加盟店様の声から紐解くに、どうやらこれらの言葉やイメージが独り歩きし、深く理解しないままに購入を検討している方が多いのでは、ということが次第に明らかになってきました。

事実、樹木葬を希望しているというお客様が石材店に相談した結果、一般墓を購入するというようなケースも決して珍しくはないのです。もちろん、要望を無理やりに覆すというわけではなく、樹木葬とは何か、一般墓とは何かを丁寧に説明するだけで多くのお客様が翻意されると聞いております。つまり、各消費者の供養体験をよりよいものにするために必要なのは、公平で中立な知識なのです。

マスメディアに取り上げられることが多く、いずれも用語としては認知されるようになってきたものの、残念ながらこれらの情報が公平かつ中立に扱われているとは言い難く、偏りのない正しい知識として消費者に届けることができるのは、まさしく当事者である私たち石材業界をおいてほかにありません。

本年最初の取り組みとして、弊組合ではこれらの情報をフラットな立場から編纂し、消費者向けのパンフレットを制作いたします。石材業界の利益だけを追求するような、いわば我田引水の情報ではなく、様々な埋葬方法のメリット・デメリットを公平に取り上げることによって、それぞれのお客様にとってベストな供養のかたちを提案できる資料として活用していただけるものになると信じています。

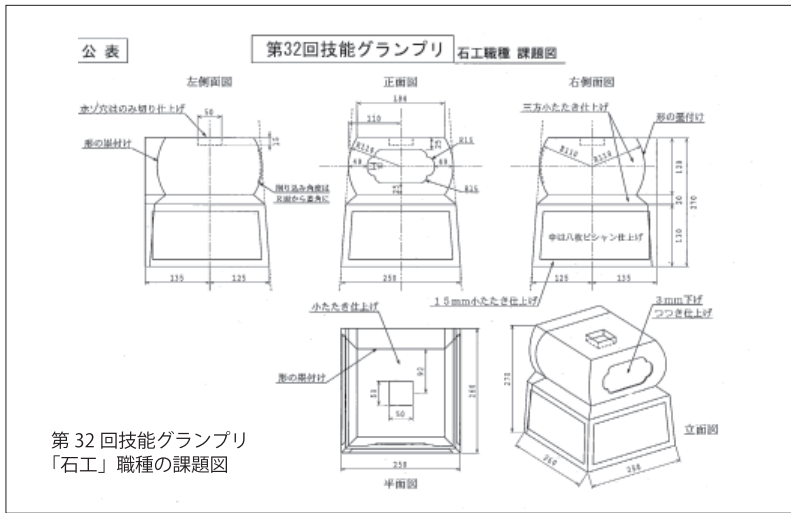
また、消費者の動向を探り、今後のマーケティングに活かしていただくための消費者アンケートや、加盟店の皆様へ情報共有するための機関紙刊行などの事業も引き続き進めてまいります。本年6月に大阪で開催する通常総会では、これらをはじめとする弊組合の諸事業についてご報告させていただきますので、ぜひご参加いただければと存じます。

本年が皆様にとって素晴らしい一年になりますことをご祈念申し上げます。

◎ 第32回技能グランプリ、「石工」職種に15名がエントリー 2月23日(金)～26日(月)、福岡県北九州市で開催

全国各地の一級技能士らが「日本一」の称号をかけて腕を競う第32回技能グランプリが2月23日(金)から26日(月)までの4日間、福岡県北九州市小倉北区の西日本総合展示場をメイン会場として開催される。主催は厚生労働省と中央職業能力開発協会及び(社)全国技能士会連合会。

今回実施される競技は、石工を含む30職種。初日の開会式は各職種の競技会場で行ない(石工はメイン会場)、中2日間(土・日曜日)で競技を実施し、最終日に北九州芸術劇場(小倉



北区リバーウォーク北九州内) で閉会式が行なわれる予定。

「石工」職種の課題図は、左図のとおり。支給材料は約 270 × 270 × 275 ミリの大きさの江持石（安山岩）で、注意事項と仕様に従って規定の時間内（2 日間で計 8 時間）に制作する。打ち切り時間までに作業が終了しなかったり、課題図に対して 1 カ所でも 5 ミリ以上の誤差が

第 32 回技能グランプリ 「石工」職種・参加者名簿

(都道府県順、敬称略)

- 1、布施吉徳（山形・布施石材店）
- 2、星宏典（福島・(株)カノメ石材）
- 3、北住昌洋（同・北住石材店）
- 4、野崎英治（同・野崎石材工業）
- 5、深谷勝美（同・深谷加工石材店）
- 6、有坂和哉（新潟・(有)有坂石材）
- 7、田辺聡志（同・田辺石材店）
- 8、中島正士（石川・中島石材店）
- 9、佐野和弘（静岡・(有)佐野石材）
- 10、鈴木秀展（同・鈴木石材）
- 11、小島大輔（愛知・小島石材店）
- 12、中島雄大（兵庫・中島石材店）
- 13、金子詢治（長崎・金子石材店）
- 14、平井親志（熊本・平井石材店）
- 15、本翔平（鹿児島・(有)ときよし石材）

あった場合、また作品仕様に著しい誤りがあると失格となる。

今回の「石工」競技には、左記の 15 名がエントリーしている。

前回大会は 2021 年 2 月に愛知県国際展示場（愛知県常滑市）などで開催されたが、コロナ禍であり無観客での実施だった。しかし今回は、「原則として、事前登録及び入場制限は実施しない」と発表されており、応援は可能。多くの方々に会場へ足を運んでいただきたい。

技能グランプリに関する詳細情報は、下記の中央職業能力開発協会の専用サイトまで。

◎技能グランプリ情報（中央職業能力開発協会内）

<https://www.javada.or.jp/jigyouno/gino/ginogpx/index.html>

※『月刊石材』2024 年 1 月号（1 月 15 日発行）より抜粋して転載

◎ 令和 5 年度石匠位認定試験、申し込み締め切りは 2 月 29 日(木)

令和 5 年度石匠位認定試験を 3 月 12 日(火)、9 時 30 分～ 17 時までオンライン（Zoom）で行ないます。受験の申し込みは 2 月 29 日(木)までです。石匠位の資格をお持ちでない方は、ぜひ受験ください。お問い合わせは事務局までお願いします。

- ・募集期間：令和 5 年 10 月 2 日(月)～令和 6 年 2 月 29 日(木)
- ・受験日時：令和 6 年 3 月 12 日(火) 9 時 30 分～ 17 時（Zoom）
- ・受験費用：50,000 円
- ・受験内容：4 講義受講後、小論文・面接
- ・受験場所：オンライン（Zoom）
- ・認定料：71,000 円（石匠位認定店パネル代含む）

◎ 「樹木葬の認知度」 についてのアンケート調査

【調査対象】 全国 40 代以上の男女

【調査期間】 2023 年 11 月 1 日～ 2023 年 11 月 30 日 【調査方法】 インターネット調査

【有効サンプル数】 500 名

- ◇ 樹木葬の全国の認知度 81.8%
- ◇ 性別での認知度は、女性が 6.8% 高い
- ◇ 地域別の認知度は、全国平均と比較して東京都、神奈川県、埼玉県、大阪府の都市部が高い
- ◇ 樹木葬を購入する際、重要視する点の第 1 位は「年間管理料が掛からない場所」となった

【調査結果】

■ あなたは「樹木葬※」を知っていますか？

※ “樹木葬” の定義を事前に確認して貰った上で回答を頂いています。「樹木葬」とは、墓石の代わりに樹木を墓標とするお墓。承継者が居なくても埋葬できる。お骨を個別に埋葬できるものや他人のお骨と合祀されるタイプもある。また、墓地の使用期限が 13 回忌まで 33 回忌まで等の有期限のものと無期限に使用できるものも存在し、年間管理料などの維持費用が掛からないものがある事も特徴の一つ。

◇ 樹木葬の認知度

「知っている」39.6%、「聞いたことがあるが詳しくは知らない」42.2%合わせて、樹木葬の認知度は 81.8% となった。

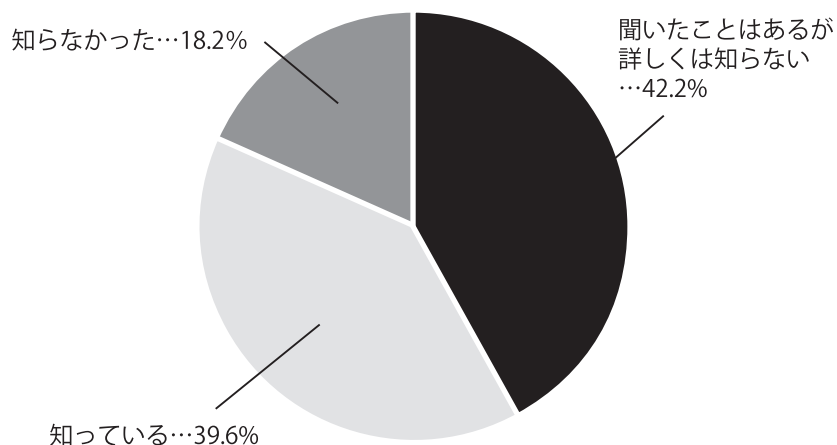
◇ 性別での認知度

「知っている」、「聞いたことがあるが詳しくは知らない」とも男性と比較し女性の認知度が高い。この 2 つの回答の合計は、男性に比較して女性の方が、6.8% 高いことが分かる。

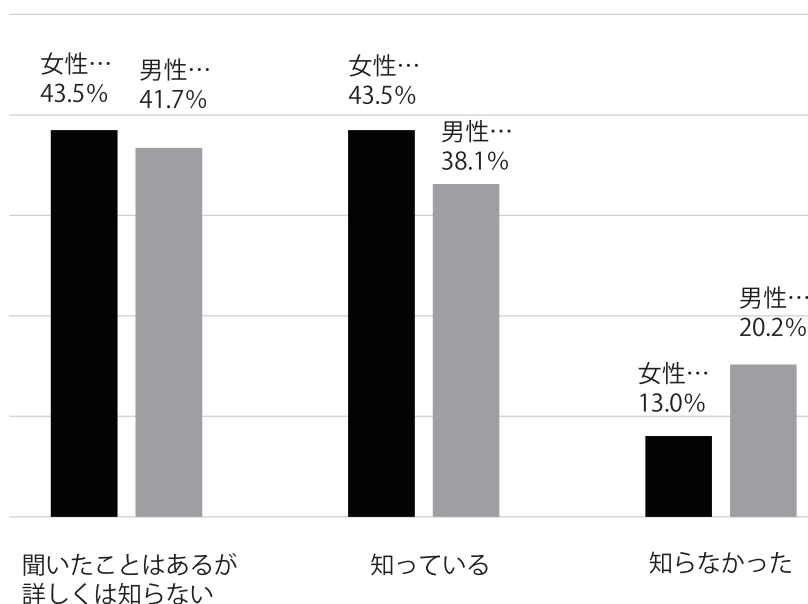
◇ 都道府県別での認知度

「知らなかった」と回答した方の全国平均値が 18.2% であるのに対して、東京都 8.8%、千葉県 10.8%、埼玉県 13.9%、大阪府 16.2% と大都市圏での認知度が高い傾向が表れている。

樹木葬の認知度



性別での認知度



(単位:人、%)

	聞いたことはあるが、 詳しいことは知らない		知っている		知らなかった	
全国平均	211	42.2	198	39.6	91	18.2
東京都	26	45.6	26	45.6	5	8.8
神奈川県	20	45.5	17	38.6	7	15.9
千葉県	20	54.1	13	35.1	4	10.8
埼玉県	15	41.7	16	44.4	5	13.9
大阪府	17	45.9	14	37.8	6	16.2
兵庫県	12	42.9	10	35.7	6	21.4
京都府	4	20.0	10	50.0	6	30.0
和歌山県	1	33.3	0	0.0	2	66.7
愛知県	12	37.5	13	40.6	7	21.9

■あなたが「樹木葬」を購入するとしたら、重要視するのはどういった点ですか？（複数回答）

「樹木葬を知っている」と回答した198人に対し、「樹木葬を購入するとしたら重要視する点」を尋ねたところ、回答者約半数の100人が「年間管理料が掛からない場所」と回答し、1位となった。次いで「購入価格が安く済む場所」、「檀家にならなくても良いお寺」が同数（94人）で2位。「アクセスが至便な自宅から近い場所」が僅差の93人で4位となった。

順位	樹木葬を購入するとしたら重要視する点（複数回答）	人数	比率（%）
1位	年間管理料が掛からない場所	100	50.5
2位	購入価格が安く済む場所	94	47.5
2位	檀家にならなくても良いお寺	94	47.5
4位	アクセスが至便な自宅から近い場所	93	47.0
5位	期限が無期限で供養される	85	42.9
6位	自然豊かな場所	84	42.4
7位	経営主体が安心できる場所	78	39.4
8位	お骨が合祀（他人のお骨と一緒にならない）されない場所	42	21.2
9位	期限が有期限（13回忌、33回忌、50回忌など）	25	12.6
10位	「樹木葬」を検討・購入することはない	18	9.1
11位	ペットと一緒に納骨してもらえる区画	13	6.6
12位	その他	2	1.0

《まとめ》

近年、都市部を中心に急速に増えている「樹木葬」と呼ばれる“お墓の形態”について、認知度調査を実施したが、約8割の回答者が認知していることがわかった。ただし、その内半数以上は、「聞いたことはあるが詳しくは知らない」と回答していることから、その実態を正確に把握できていないこともこの調査で明確になった。樹木葬の高い関心と取得者の増加を受け、マスメディアで樹木葬を取得する際の注意点を特集するなどの記事を目にする機会も多くなっているが、“樹木葬”は歴史も浅く、その名称や埋葬方法などに明確な定義や規程がないことから、樹木葬を販売する事業者が集客や申込獲得のために誤った内容を広告宣伝をする場合もあり、購入者が後悔する事例も起きています。これらのことから全石協では、消費者とその家族や親族が、お墓に求める供養のかたちを後悔することなく、お墓に関わる事業者が正しい知識や情報を消費者へ提供できるよう努めてまいります。



経済産業省公認 20121004情第5号

全国石製品協同組合

お問い合わせ等は、☎ 03-5733-3776

〒105-0012 東京都港区芝大門2丁目9番14号5F

FAX：03-5733-3778

E-mai：info@zenseki.or.jp

<https://zenseki.or.jp/>